

あすの水俣

(6)

問、車工養殖の計画はとん座しているように、われわれ漁民がいま一番望んでいるのは天草近海への出漁だ。昨年から禁漁区外の操業はしているが、エサ代にもと欠く始末。なんとかやってゆけるような対策を講じてもらえないものか。また百聞港沖の下へしゅんせつ、丸島漁港改修工事などの見通しについておたずねしたい。(水俣市月ノ浦一漁民)

漁業問題

答え 昨年九月、生活に迫られた漁民が一斉に近海操業に乗り出して騒がれたが、これはあくまで自家消費のためだったにもかかわらず、ほとんどが油代に食われてしまう状態だった。原因のひとつとして操業に計画性がなかったことがあげられるところから当局も反省、こんどは近く計画操業にからせる準備を進めている。

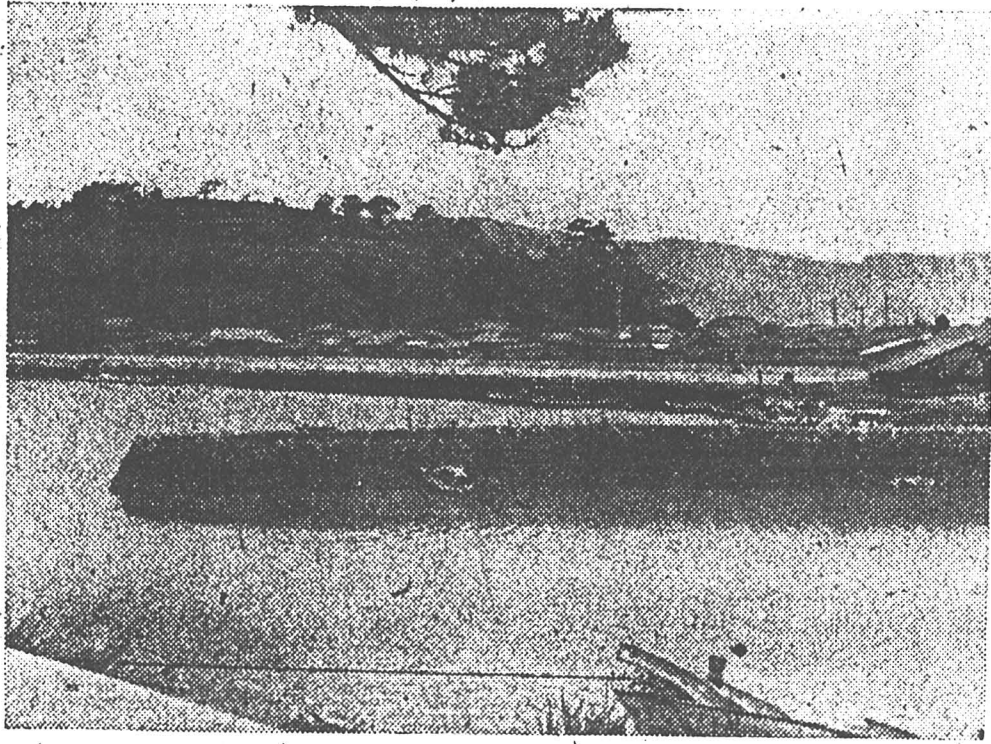
計画は「国、県、市が百五十万円で計三百十五万円をだして平均三・五トの船を六隻購入、これらを主船(十八人へらい乗りの組)に六船団(二船団十隻)を編成して天草近海で操業させる。船団は第一茂道、第二満活に追われた漁民が一斉に近海操業に乗り出して騒がれたが、これはあくまで自家消費のためだったにもかかわらず、ほとんどが油代に食われてしまう状態だった。原因のひとつとして操業に計画性がなかったことがあげられるところから当局も反省、こんどは近く計画操業にからせる準備を進めている。

待をかけた。ドブの完全しゅんせつは「数億円、あるいは数十億円かかる見込み」といって、新日鐵が「昨年暮れに六千万円かけてつくった浄化装置の効

果が現われて死魚やフラフラした魚が見られなくなった現在、ドブ

天草近海へ計画操業

船を購入 六船団を編成



ではどうにも仕方なさそうだと、彼が三十四年度から三五年計画で行なっているものでことしが最終年度。本年は「現在の魚市場

意見を強引以上、この問題はあきらめざるにほかに道はないと、つぎに丸島漁港の改修工事は県

の埋め立てを行なう」となっている。これまで工費三百七十五万の臨海道路修築(長さ二百四十一メートル、幅四メートル)工費五百一十二万の漁協東側埋め立て、工費百二十四万円の西側防波堤力サ上げ工事などが完成をみていることは地元漁民なら知っており。

港の丸島の水される改修される。また市では本年度と明年度の二万円で茂道地区漁港の海岸線保全工事(長さ百四十三メートル、幅平均三メートル)工費七百五十万円)を行なう予定で本年度は三百万円の予算が組まれている。

以上のとおり当局もできるだけの手は打っているようで「もっと早く強力な対策を講じてやりたいが